

# 新潟理窓

第21号  
発行所  
県支部事務局

## 支部長御挨拶



新潟支部長  
新保 隆

昭和四十年  
五年理学部  
物理学科卒

業の新保です。七月十六日の中越沖地震で被災された同窓の方々に、改めてお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念申し上げます。

さて、平成十九年度理窓会新潟支部総会が八月二十六日支部役員並びに会員の皆様のご尽力により、本部から塚本理事長、森田常任幹事並びに森野維持会会長各位をお迎えし、「大学の現状」「暗号理論」「百二十五周年記念募金」等大学の近況や学問についてのお話をさせていただきました。新潟理窓会の先輩の先生方も多数ご出席され、また、義務教育関係や企業関係の方々も多くご出席され、盛会となりました。新潟理窓の輪が一段と拡がってきている印象でした。若い会員の参加が増えることが今後の課題かとも思います。

この総会では、二年間新潟理窓会の発展にご尽力された田村支部長がご退任されることとなり、その後を私が務めよとのこととなり、力不足ではありますが、教職三十数年間に同窓の諸先

輩からいただいたご指導に少しでも恩返しすることができればと、大役をお引き受けしました。会員の皆様のご支援を頂き、全力を傾注し、本会が同窓の絆を強める会として発展するよう、微力ではありますが努力する所存です。また、十月二日には恒例の研修会が、柿崎・久比岐高校長の坂上先生、両津高校の中田教頭先生を講師に、十一名が出席されて開催されました。教育現場の課題や教育行政から見た高校教育、教職員のあり方など、広い視点からお話をいただきました。参加された四十年代の先生方には日頃の疑問の解消やこれからの教育のあり方の指針など参考になることが多かったものと思います。中堅の先生方がこの研修会に更に多く参加され、幅広く教育を考える機会となることを願います。

さて、教育界ではいわゆる学力問題に端を発して、中教審、教育再生会議が開催され、教育内容が幅広く検討され、高校生の学力保障のことも話題になっていくようです。教育課程審議会では理数教育の大切さが再認識され、小中学校では理科、数学の指導時数の増加と指導内容の向上、高校では理科の科目編成の変更が提言されています。子どもの頃を思い返せば、狭い国土、資源小国の日本が世界に伍していくには科学技術を振興し、技術立国となることが必要であり、知的財産が資源と教えられ、理数教育が華やかりしころ

でした。国土の広さや、資源が少ないことは今も変わりありません。理数教育に携わる者として、科学技術を支え、発展させ、人のために生かせる若者を育てることが大きな使命とも考えます。

## ◇新潟支部総会◇



平成19年8月26日(日)理窓会新潟支部総会が下越地区のお骨折りにより新潟東急インホテルで開催されました。総会での議事の内容につきましては、後述の通り承認されましたことを報告いたします。

今回は理窓会本部より理事長の塚本恒世様、常任幹事の森田昌宏様、維持会会長の森野義男様にお出でいただき、講話と報告を賜りました。お三方には二部の会まで御出席いただき、心より感謝申し上げます。

来年度は中越地区の当番となっておりますが、何卒よろしく願います。

## ◇役員改選◇

**支部長** 新保 隆  
**副支部長** 岩根 卓司 木南 誠

室岡 政幸 森 久  
中野 晋 坂上 隆  
熊谷 正美 水鷲 繁満

佐藤 茂樹

**地区幹事** 平成19年度版名簿に記載  
**県幹事** 平成19年度版名簿に記載  
**顧問** 平成19年度版名簿に記載

(今年度、次の方に新規委嘱)  
田村 仁 村山 宥一

## ◇平成18年度事業報告◇

- ・支部役員会開催
- 7月9日 新潟会館
- ・支部総会開催

8月26日 高田ターミナルホテル

・ 会員名簿発行(8月版)	8月26日	A4 24頁40部
・ 研修会開催	9月30日	新潟会館
・ 会報「新潟理窓」発行	3月10日	B5 4頁563部
・ 会員名簿発行(3月版)	6月21日	A4 24頁64部

◇平成19年度事業計画◇

・ 支部役員会開催	7月8日	新潟会館
・ 支部総会開催	8月26日	新潟東急イン
・ 会員名簿発行(8月版)	8月26日	A4 24頁50部
・ 研修会開催	10月7日	新潟会館
・ 会報「新潟理窓」発行	2月中旬	B5 6頁600部
・ 会員名簿発行(3月版)	3月中旬	A4 24頁100部

◇平成18年度会計収支決算◇

○収入の部

繰越金	194,816円
会費	91,780円
本部補助	65,000円
雑収入	2,025円
合計	353,621円

○支出の部

支部総会補助	36,402円
会議費	6,930円

地区還元金	4,000円
名簿・会報	3,330円
送料	62,560円
事務用品	3,143円
資料代	6,000円
合計	122,365円

◇平成19年度会計予算◇

○収入の部

繰越金	231,256円
会費	100,000円
臨時徴収	5,000円
雑収入	3,744円
合計	340,000円

○支出の部

支部総会補助	30,000円
会議費	20,000円
地区還元金	4,000円
名簿・会報	10,000円
送料	73,500円
事務用品	10,000円
資料代	6,000円
予備費	186,500円
合計	340,000円



御挨拶 (理窓会との出会い)

副支部長  
坂上 隆

この度、理窓会新潟支部副支部長を仰せつかりました。

県立久比岐高等学校に勤務しております坂上と申します。新保支部長のご指導のもと、微力ながら理窓会発展のためにお手伝いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

理窓会との出会いは三十数年前でした。私の初任校は六日町高校湯沢分校(現湯沢高校)でした。大学を卒業したばかりの教職一年目で、学習指導や生徒指導で四苦八苦しているところに理窓会新潟支部総会の案内状が郵送されてきました。卒業時に、「理窓会」なる同窓会が各都道府県単位で活動していることは説明を受けて知ってはいませんが、年輩者の集まる会と思ひ欠席しました。数日後、斉川洋二校長先生から、「坂上君の支部費も払っておいた。この次から理窓会に出なさい。」と言われしました。

翌年、支部総会に参加しました。驚いたことに、参加者のほとんどが高校教員でした。更に理窓会会員名簿をみて、本県の中・高校教員に理科大出身者がこんなに大勢いたのかと、ただただ驚くばかりでした。それから、なるべく支部総会には出席しよう心がけていました。出席率はあまり良くなかったように思います。三十代後半になつてから、先輩諸氏からの誘いもあり出席することが多くなりました。すると、顔なじみが多くなり、特に同年代の会員達と「先生のいる学校どうだ?」と言って、情報交換するようになりま



御挨拶

副支部長  
熊谷 正美

記憶をたどると、昭和と平

成の境目あたりに恩師の松尾吉知先生が新潟においでになるといので何度か支部総会に出席させていただきました。当時は、中学校の教員の出席はほとんどいませんでしたが、高校や企

した。

平成十四年度には当番地区が中越地区であったことから、当時、長岡向陵高校でお仕えした田中實校長先生のご指導のもとで支部総会を運営させていただきました。その年度は、民間企業にお勤めの多くの会員から出席していただき、大変うれしく思いました。また、長岡科学技術大学の高橋勉先生(理窓会員)から大変興味深いご講演をいただきました。皆様、その節は大変ありがとうございました。

数年前から、中学校教員の会員も支部総会に出席されるようになり、関係者のご努力に敬意を表します。最後になりましたが、理窓会新潟支部が、教員にとどまらず、様々な面で活躍されている会員諸氏の憩いの場になり、益々、隆盛されることを祈念しまして挨拶いたします。

業の先輩のお話を伺うことができ有意義な時間を過ごせたと記憶しております。

その後、十数年なかなか理窓会に縁がなくこの度、中学校会員との連携強化ということでお話があり、力不足ではありますが大勢の副支部長の末席においていただくこととなりました。よろしくお願ひします。

先ほど、十数年間縁がないと述べましたが、高校の先生とお話しする機会などには同窓と言うことでより近しくご指導をいただいたこともありまして、特に前県支部長の田村仁先生が私の母校である巻高校の校長になられてからは、中学校と高校との連携の機会に加えて高校の同窓会でもお会いする機会があり、たくさんのご指導をいただきました。たいへんありがたくこの「縁」に感謝しております。

年齢を重ね、立場でものを言わねばならない日々が増える歳まわりになりました。時として自らの過去である学生時代を振り返り謙虚に自らの行動を反省することの大切さを身にしみて感じます。また、いつまでも初心を忘れず自分を磨くためのエネルギーを補給するためにも同じ学び舎で志を培った方々との交流はありがたいことです。

少子化の影響で、大学が学生を選ぶ時代から、学生が大学を選ぶ時代へとシフトしつつあります。大学再編の声まであります。また団塊の世代がふた

たび学ぶ場としての大学の存在価値も高まりつつあるようです。大学に社会のニーズを伝え、大学の社会的存在感を高めてゆく。そのことで結果として大学から卒業生に対してもなんらかのサービスの恩恵をこうむれるようになる。大学と卒業生の共存共栄の道が開けると考えます。大学には質の高い研究と教育に加えて社会貢献を多に願っています。胸を張って理科大学卒業生であることを語るためには、卒業生の活躍と大学の活躍が両輪であることを心に留め、がんばってゆこうと思っております。

### 御挨拶（学校教育の再生元年）



副支部長  
水島繁満

私は、副支部長として、次の二つをビジョンにもっております。

一つは、日本社会（学校教育）のリーダーとしての理窓会員となるように努めること。二つは、どの職種や立場であろうと互いの絆を深め、支え合う人となるような理窓会員であることです。

ご存じのように、一昨年暮れ、教育三法が改正されました。これは、子どもたちが安心して楽しく学び育つこと

ができるように、社会全体で認識を共有していくことを願ひ、①自己実現を目指す自立した人間、②国家・社会の形成に参画する国民、③国際社会を生きる日本人の育成を目指しています。

教育を取り巻く環境は、情報化、国際化、少子高齢化、核家族化、価値観の多様化など大きく変化してきています。理窓会の先人たちは、高等学校や義務の教育分野だけでなく、どの職種の分野でもリーダーシップを発揮し、活躍されておられます。「今後の日本社会は、我ら理窓会員が支えていくのだ」と言うくらいに器量もち、仕事をしたいものです。

話は変わりますが、名簿をご覧になられましたでしょうか。意外や意外、近隣に理窓会の先輩や後輩がいることに気が付き、驚かされたのではないのでしょうか。勇気を出して声をかけ、仲間

の輪を広げ、絆を深めましょう。私事ではありますが、あれば確か、大学四年の時だったと思います。理学部の本館に十七階建てのビルが建ちました。女子の少ない大学のはずなのに、なぜか屋上に行くことアベックがいました。ペコちゃん焼きも大好き。ジャンボ餃子にも挑戦しました。卓球部で、野田校舎にある合宿所にも霊波の光経由でよく行きました。思い出はたくさんあります。うわさによると現在の飯田橋は駅ビルができて様変わりしたとか……。

最後になりましたが、大役を仰せつかりました。微力ではありますが、任を全うするように努めます。皆様のご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

### 御挨拶



副支部長  
佐藤 茂樹

この度、県支部副支部長を仰せつかることになりました佐藤です。新保新支部長の下、微力ではありますが理窓会県支部発展にお手伝いできればと思っております。よろしくお願ひ致します。

理窓会県支部の会合に初めて出席してからもう彼30年ほどになります。私はずっと高田の住人ですが、上越には元々同地区に在住の人たちの定期的な集まりがあつてそれに参加したのが最初でありました。すでに退職された村直先生に声を掛けて頂いたのが切掛けです。というのも先生は中学時代の数学の担任でその頃からお世話になっていたのですが、理科大を卒業して地元に戻ってからすぐに連絡があり、今に至っている次第です。因みに現副支部長のひとり、室岡政幸先生は高田高校の同期で2年、3年と同じクラスでした。それぞれ永いお付き合いをさせて頂いているのもこの会のおかげだ

と思っと思っています。

ところで私は工学部機械工学科の卒業（S50年）ですが、理学部出身の先生方の多い中ある面では特異な存在であるかもしれません。一般企業に在籍する卒業生の参加が少ないのが実情ですが、それでもかつて上越の会では全体で25人以上出席のうち5名ほどの参加などという時期もありました。県支部の活動を今後更に発展させて行くには会社関係者などの参加を促す方策をもっと考えていかなければならないと思います。

さて話は変わりますが私は現在(株)直江津電子工業という会社に勤務しております。シリコン半導体ウエハなるものを製造しており、グループ会社全体の生産量では世界のトップシェアです。いわゆる最先端技術といわれるウエハの製造技術は非常に進歩が速く現在の最良の技術が数年で陳腐化してしまうことも多々あり、業界の中の競争は熾烈であります。今は特許関係業務に關わっていますが最先端と言われるだけ国内及び海外の関連技術の出願数は膨大なものです。また最近はTLO事業などと称し、大学から産業界への技術移転も盛んに行われるようになりました。理科大の教授の出願も専門紙などで見る機会が増えたような気がします。昨年の県支部総会が高田で開催された折も、来賓の本部塚本理事長といろいろと半導体技術のお話をさせて

戴きました。これからも理窓会の会合を通じてこのような交流を持つ中、会の発展に尽力できればと思っています。

### 当学校教育の原点

S56理・物  
伊藤 繁明

大学を卒業し、中学校理科の教員になって二十四年の月日が経ちました。教員最初の赴任校は、離島粟島でした。専門知識より、いかに子どもと過ごし、共に感じたことから得るものが大切かを学びました。

その粟島浦中学校に二十年ぶりに再赴任し、この春まで過ごしました。最初の赴任で一緒に飲んだ青年団の人たちが保護者になっていたり、当時保護者だった方々が島を中心となって動かしていたりし、学校にも大変協力的でした。学校に対する地域や家庭の協力のありがたさ、大切さを学びました。船便が欠航し、友人や家族との約束が果たせないという不便さはありますが、粟島は、教育の原点です。塾がないため子どもの学力は学校教育だけで身に付けます。このためには、子ども一人一人を見取り、支援することが必要になります。地域や家庭と連携しながら、個に応じる教育は学力だけでなく、生徒指導や心の教育にも重要なことです。これは、粟島などの極小規模校だけでなく全ての学校に通じることでしよう。今後も粟島で得た経験を支

えとして教員を続けていきます。“すべては子どもたちのために”

### 学びの校舎

S60理・化  
増子 雅志

教壇から見た木製ロッカーに、二十数年ぶりの母校を実感した。周年行事同窓会総会と出身校・同窓意識の流れの中で「理窓」も広いと感じつつ、校舎改築・取り壊しが始まっていた。重機が水を浴びた校舎からコンクリ

ートを削り鉄筋をむき出しにする姿を目の前で見る。画面から流れていた影が変わる多くの映像をただ見ていた自分にも、じっと見ているまなざしが少しは理解できた。これに続く希望や思いなどを思い出や哀しみの代わりに探しているのかもしれない。そんな校舎の影が無くなり地にかえると影が弱まる自分に情けなくなる半面、繋げるものが少し見えてきた。

数十年かけて成長した中庭。その緑は季節を彩り、屋上より高い樹には安心があり、さえずりは緊張をほぐすスィッチとなっていた。樹は成長して多く関わることで価値が高まる。その年月は簡単ではないと知った。廊下より広い正面階段のゆったり感がたまらなく良かった。生徒はすれ違いを気にせず友達と会話する、用事で急ぐ、考えながら歩く姿を見て、学校はさまざまな歩調を受け止めるやさし

いスペースが時間を生かす。設計にも作りの深さを感じた気がした。ただ過ごしていたことに気づき、校舎にお詫びしながら、「これからだ」と最後まで教えられた。

### オープンスクール制度&小中併設

S55理・専物  
庭野 和也



さにかこつけて理窓会に顔も出さずにここまで来てしまいました。忙し

理科大を卒業していつの間にか二十五年以上が経ってしまいました。忙し

私はこの四月から長岡市立太田中学校でお世話になっております。本校の前を通っている濁沢種芋原線（五一五号線）を少し登ると目の前に巨大な大鳥居が現れます。さらにそこから1kmほど登ると、高龍神社の入口が見えてきます。決して大きな神社とは言えないが、商売繁盛、家内安全、身体健全、金運、開運、交通安全の神様として全国から多くの参拝者が訪れて来ます。平成十六年十月二十三日、何の前触れもなく発生した中越大地震。ここ太田地区は壊滅的な被害を受け、震災後



は前川小学校に間借りさせていただきました。そして昨年九月、ようやく校舎の補修が終え、地元太田へ戻って行くことができました。

本校は、長岡市内全域を学区とするオープンスクール制度と小・中併設の小規模校です。

小学校は二・三年、四・六年の複式学級ですが、二人担任制と中学校教師の協力によるT・T指導により、ほぼマンツーマンに近い状態で、一人一人に合った指導を進めています。中学校も一学級五〜七名で、アットホームな雰囲気の中で着実な学習が進められています。また、全校集会はもとより、児童会と生徒会を一体化させ、入学式・卒業式・運動会・文化祭等の各種行事を小・中合同で実施しています。

総合的な学習「太田学」は、震災直後から「震災復興」をテーマに掲げ「農業」「観光」「錦鯉」に分かれて追究した結果を、「新たなふるさと再生に願う」として泉田県知事に提言しま

した。その様子はマスコミにも大きく取り上げられました。

こうした極めて稀有な特色を有する本校には、県内外の学校関係者が視察に訪れます。今後もモデル校としての誇りと自覚もって学校運営にあたりたいと考えています。

## 教員として

S63理・数

磯西 忠男

大学を卒業し高校の教員になって今年で二十二年目になり、この春からは十日町高校に勤めています。あらためて振り返ってみると、数学が好きで大学で数学を勉強して、数学にかかわる仕事をしてみたいと思う気持ちが強くなり教員という仕事を選びました。あまりに単純な動機で、今更ながらよくここまで勤めてこれたなと思います。

教員になりたての頃は授業のことだけで精一杯という感じで、毎日が慌ただしく過ぎていき、周りを見る余裕すらありませんでした。それでも少しずつ仕事に慣れ、少しずつ学校の様子が見えてくるようになると、教員という仕事はこういうもののかなというイメージがもてるようになりました。それは学校には多くの生徒がいて、教員には生徒とかかわっていくことが求められているということです。生徒とかかわる場面は授業のときだけではなく、学級担任として、部活動をとおして、

生徒指導や進路指導など学校の中には様々な場面があります。そしてより多くの場面で、より多くの生徒とかかわることを目標にこれまでやってきました。しかし、ここ何年かは、楽をすることを覚えたり、家庭を持ち時間的な余裕がなくなったりとあれこれ理由をつけて積極的に生徒にかかわっていないか、時々自信が持てなくなってきたのが実際のところでした。

せっかく多くの生徒とかかわることができる仕事をしているのだから、何らかの形で生徒の記憶に残る教員になれば幸せなことだと思います。そのため自分から生徒にかかわる姿勢や気持ちをこれからも持ち続けたいと思います。

## 佐渡での雑感

S58理・化

中田 亮一

この春から母校の両津高校に勤めることになり、三十年振りの佐渡での生活を送っています。

高校は白山という小高い丘にあり、教室の窓からの眺めがよく、穏やかな海が窓一面に広がっています。

また、生徒は素直で人懐っこく、しかも面倒見のよい先生方に囲まれ、本当に恵まれた環境で仕事をさせてもらっていると感じています。

佐渡は豊かな自然に恵まれていることは勿論、佐渡金銀山や能などに代表

される歴史や文化にも恵まれた島ですが、高校卒業後、ずっと島外で過ごし





てきた者には意外に知らないことばかりです。仕事の関係で島内の施設を訪ねたり、地元の方から話を伺う機会があります。常に新たな発見があり、まるで知らない土地を訪れたような感動があります。

さて、佐渡で暮らしていると、船で家族の元に帰るのが大変だねと言わ

れますが、実はこれが楽しみの一つでもあります。と言っても、金曜夜の新潟行きカーフェリーに乗船できたときの話ですが、二等船室のいつもの場所にいつもの顔が集い、持ち寄った酒と肴をひろげ車座になり宴が始まります。一週間の疲れを癒しながら、互いの健闘を称え、家族の元へと向かう二時間半の船旅を満喫します。また、佐渡に赴任した仲間同士の絆も深めてくれます。佐渡に赴任経験のある先輩方からもこのことはよく聞いていましたが、これから先、毎年顔ぶれは変わってもずっと続いていく佐渡の代表的な情景の一つかなのかもしれない。

## 高田の四季

S55理工・数

上杉 肇

高田に赴任して三年目を迎えました。毎朝、勤務先に向かう途中、今日は妙高山は見えるだろうかという、脇見をします。白く雪化粧した山はとても雄大で本当に美しく感じられます。

お堀の周りの桜は春になるとそれは見事に咲き誇ります。夜桜で一杯は毎年の楽しみです。

夏のお堀は緑の葉で覆い尽くされまです。その中に点々と蓮の花がピンクに輝いています。良い香りがあたりに満ちて、散策したり、写真を撮る人の姿が見られます。

秋には正門の脇に立つ銀杏の大木の



葉が黄色に色づき、季節の変わり目を教えてくれます。高田の四季はともはつきりと移り変わるような気がします。仕事の合間に外の景色を眺めては、気分転換しています。

その景色を留めたいと、最近、写真に撮るようになりました。ちよつと気になった場面を見つけては、シャッターを切る。しかし、目で見ただけで、パソコンに保存した画像を比べてはがつくりしています。思っていたものは全く別のものになってしまっています。それでもデジカメでどんどん撮っているとたまにいいなと思うものがあります。まったくの偶然なのですが、それもカメラのおもしろさなのかなと思います。しばらくは続きそうです。

### ◇事務局からの連絡◇

#### ①会報「新潟理窓」について

事務局の怠慢により、発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。

次号は10月に発行の予定です。投稿大歓迎です。原稿を事務局連絡先のメールアドレスまで、デジタルデータでお送りください。

#### ②ホームページについて

理窓会新潟支部の活動は、室岡副支部長により、ホームページ上で公開されています。アドレスは、

<http://www17.ocn.ne.jp/~nurooka/index.html>です。

#### ③支部会費について

年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。

事務局の名義が「上杉肇」となりました。「金融機関等による顧客等の本人確認等に関する法律」により、団体の名称を使う場合は規約の改正をしなければ不可能になったためです。ご了承ください。

#### ④名簿について

支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。

名簿に載っていない方がおられますら情報をお寄せください。

#### ⑤事務局連絡先

新潟市秋葉区新金沢町29-14 上杉肇  
電話&fax 02550220312  
e-mail:GHF03107@nifty.ne.jp